

「更新計画」による効果的な施設更新

～「未来に引き継ぐいわきの水道」の実現に向けて～

○ 中長期視点による施設更新の必要性

本市では、今後、合併以降に整備した水道施設（浄水場、配水池、水道管など）の老朽化が進み、これら施設の大量更新の時期を迎えて、多大な更新費用が必要となってくるが見込まれています。

これからの40年間について、「必要となる水道施設の更新費用」と「水道施設更新への投資可能額」を試算したところ、このままでは水道施設更新への投資可能額が不足することが分かりました。

このため、持続可能な事業運営を目指し、事業費の抑制や事業量の平準化など、水道施設の更新を長期的な視点で効果的に進めていくことが必要となっています。

1 水道施設更新計画はどんな計画？

水道事業は、地方公営企業法に従って運営しており、この法律には、施設ごとの耐用年数が決められています。本市では、法定耐用年数を参考としながら、「施設を実際に使用できる年数」を設定し、更新対象となる施設の健全度や重要度も考慮しながら、更新の優先順位を付けるための「更新基準」を独自に定めました。例えば、水道管の法定耐用年数は40年となっていますが、更新基準では実際に使用できる年数を50年～80年としています。

この基準により、水道施設の更新をより良い方法で、長期にわたって計画的に実施していくための「水道施設更新計画」を作成しました。

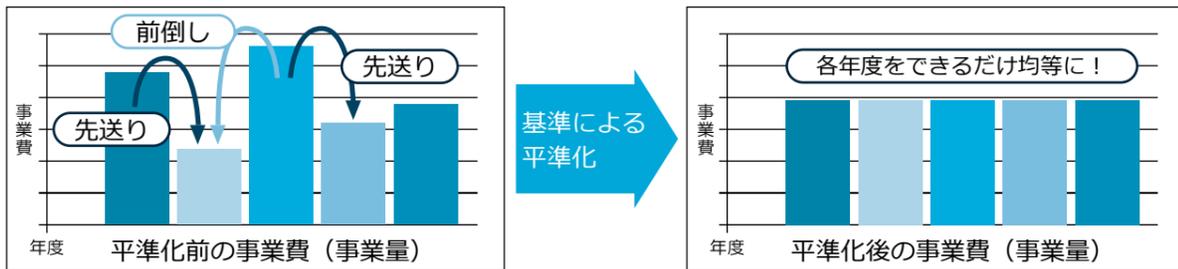
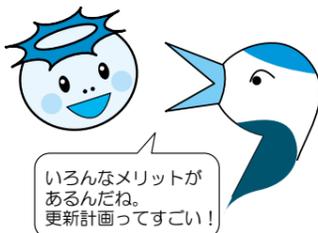
2 更新計画によって得られるメリットは？

(1) 事業費の抑制

本市の実態に即した市独自の更新基準を設定することで、施設の寿命化や最適な更新が図られ、各年度で必要となる事業費を低く抑えることができます。

(2) 事業費の平準化

更新基準により施設更新の優先順位付けが容易となり、「前倒しが必要な事業」と「先送りできる事業」に明確に区別することができることから、各年度における事業費（事業量）の平準化が図られます。



3 長期の水需要を踏まえた施設更新のあり方（水道システムの再構築に向けて）

今後、施設の更新を進めるに当たっては、市独自の「更新基準」に従った更新を行うだけでなく、減少が見込まれる給水人口や水需要を考慮し、最適な施設の規模や能力も想定する必要があります。そこで、これからの施設の更新は、水道システムの再構築を踏まえて進めて行くこととしています。

次号では、「水道システム再構築計画」について取り上げる予定です。

○お問い合わせ 配水課庶務係 TEL.22-9316

水道週間イベントを実施しました

いわき・ら・ら・ミュウを会場に6月1日から7日までの間、「絵画作品展」や「写真展」、「クイズラリー」などの様々なイベントを実施しました。たくさんのお客さまに来ていただき会場は大盛況でした。

来年も楽しいイベントを企画しますので、楽しみにしてください。



応募のあった456点の絵画作品と108点の写真で会場が彩られ、多くのお客さまが足を止めて鑑賞していました。



写真を撮る際のポイントなどのアドバイスが行われ、参加された皆さんは真剣に聞き入っていました。



6月4日に行われた親子実験教室には、親子30組の参加があり、段ボール水車作りや水で動くおもちゃ作りなどを体験しました。それぞれに発見や感動があり、親子のふれあいの場にもなりました。



いわきの水道水2種類と市販のボトルウォーター1種類を飲み比べて、「おいしい!!」と思うものに投票していただきました。



イベント会場にかくされているヒントを頼りにクイズを解きながら、水道水について学んでいました。

フラおじさんとミュウも会場に遊びに来てくれました。

アンケート調査

会場内でアンケート調査を行い、272人のお客さまから回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。今回は、その中から水道の安全性に関する項目の調査結果をご紹介します。

「水道」について重要だと思われることは何ですか？（2つまで選択可）		
安全性（水質に不安がない）	237人	87.1%
安定性（地震や湯水などの災害に強い）	125人	46.0%
おいしさ	62人	22.8%
料金が安い	46人	16.9%

○お問い合わせ 経営企画課広報情報係 TEL.22-9309

一滴「らら」ム・全国で実施されている水道週間は今年で第58回となりました。第1回は1959年でした。